

b) H 地区

(a) 維管束植物

影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.1.3-29 に、確認位置を図 6.1.3-38 に示した。

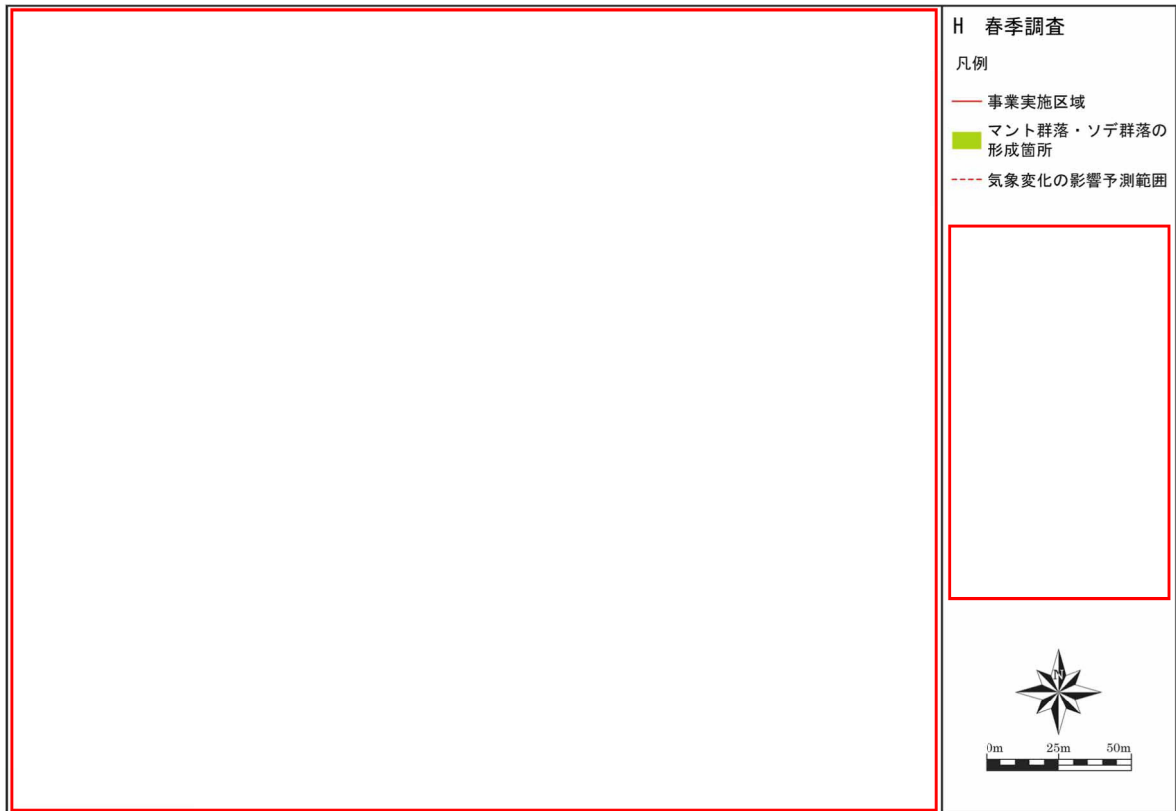
最終調査時で確認された貴重種は、12 種 100 地点 192 株であった。

主な生育地は、、、
、、、、
、、、、、
、、の全 14 種とも林内であった。

表 6.1.3-29 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境 (H)

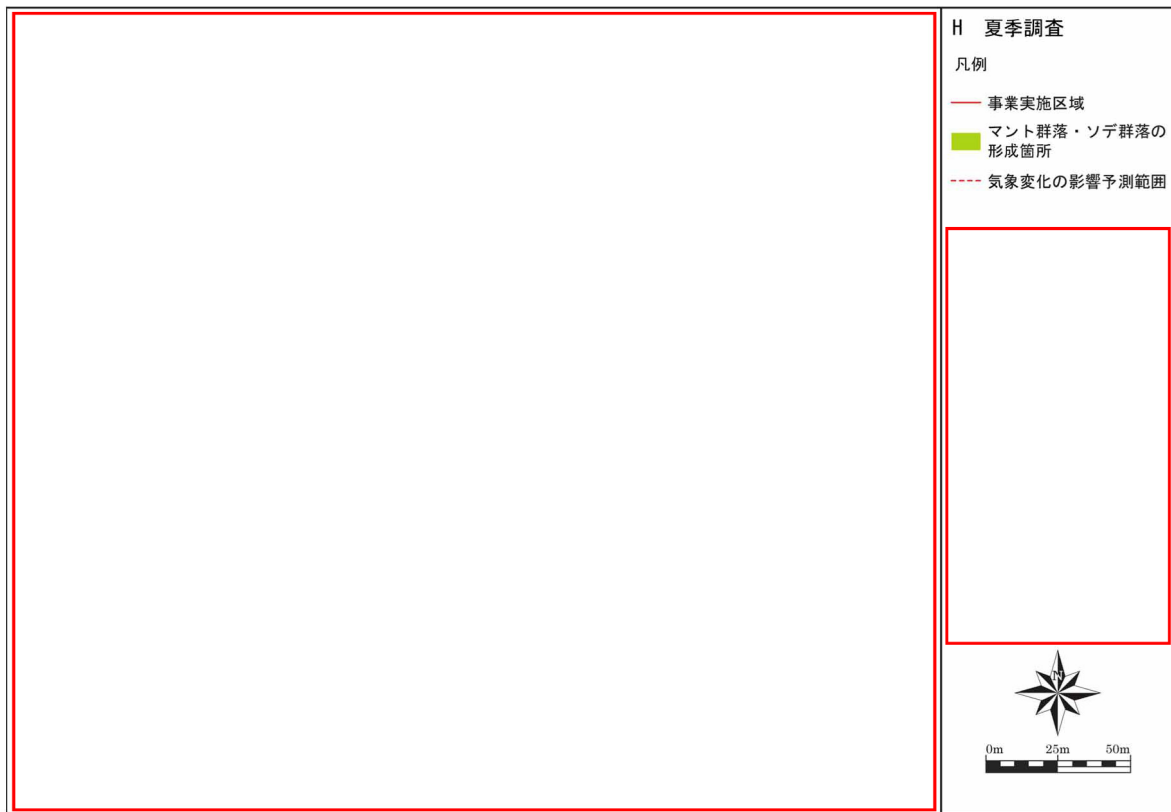
No.	科名	種名	学名	H30年度								貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時								環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季		夏季		秋季		冬季				
				H30年 6月	H30年 9月	H30年 10~11月		H31年 1月						
地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数	地点数	株数							
1				3	8	3	8	3	8	4	10	VU		林内
2				1	1	1	1					CR	EN	林内
3				14	65	14	68	14	69	14	69	VU	VU	林内
4				3	3	3	3	3	3	2	2	VU		林内
5				37	39	39	41	39	41	41	43	EN	VU	林内
6				14	15	14	16	14	16	13	15	VU	VU	林内
7				2	2	1	1						CR	林内
8				2	2	2	2	2	2	2	2	VU	VU	林内
9						1	1	1	1	1	1	VU	VU	林内
10				6	13	8	15	9	16	9	17	NT		林内
11				2	5	1	4	1	4	1	4	VU	EN	林内
12				7	12	7	11	8	13	9	18	VU	EN	林内
13										3	10	EN	VU	林内
14						2	2	1	1	1	1	NT		林内
計	8科		14種	91	165	96	173	95	174	100	192	13	10	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-38(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 30 年度春季



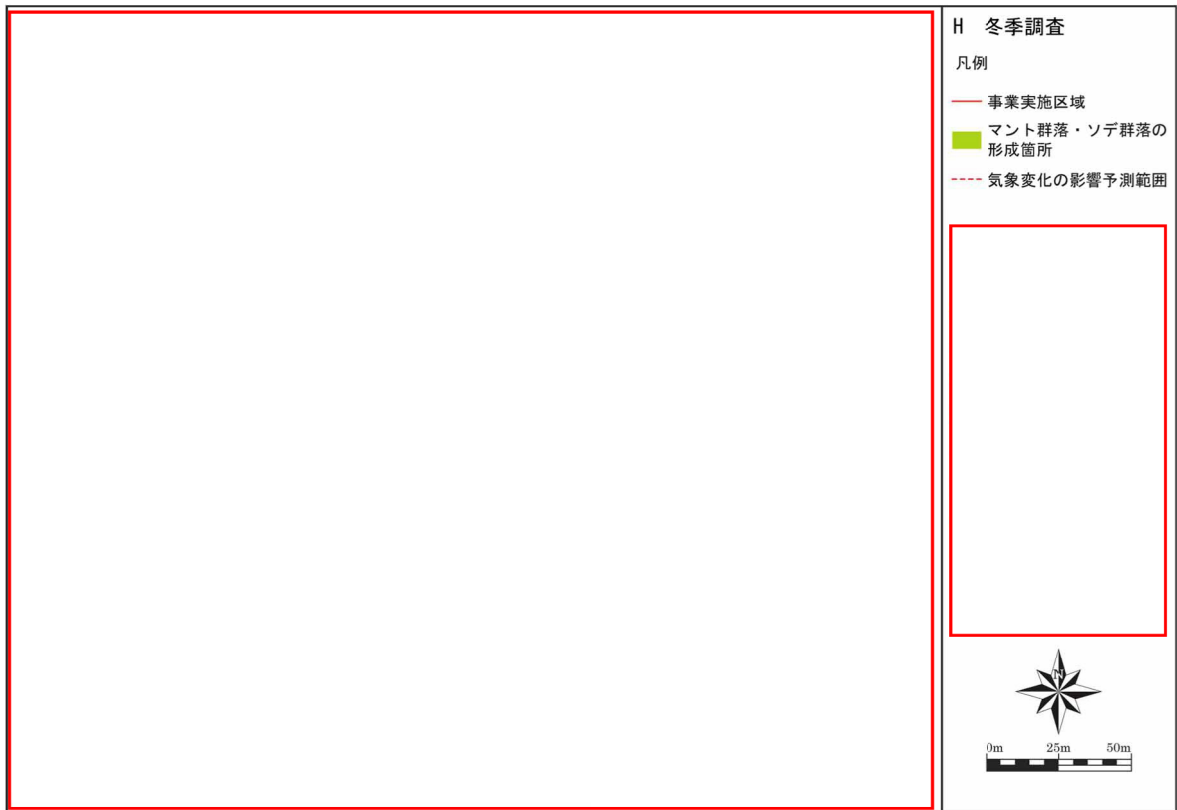
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-38(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 30 年度夏季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-38(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 30 年度秋季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-38(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(H) 平成 30 年度冬季

(b) 蘚苔類

影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表 6.1.3-30 に、確認位置を図 6.1.3-39 に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は 1 科 1 種 3 地点であった。

主な生育地は、H 西側の沢で確認されており、は、林内の湿った土上に生育していた。

表 6.1.3-30 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(H)

No.	科名	種名	学名	H30年度				貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時						
				春季	夏季	秋季	冬季	環境省 RDB	沖縄県 RDB	
				H30年 6月	H30年 9月	H30年 10月	H31年 1月			
地点数	地点数	地点数	地点数							
1				2	2	3	3	VU	VU	林内の湿土上
合計	1科	1種		2	2	3	3	1	1	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。

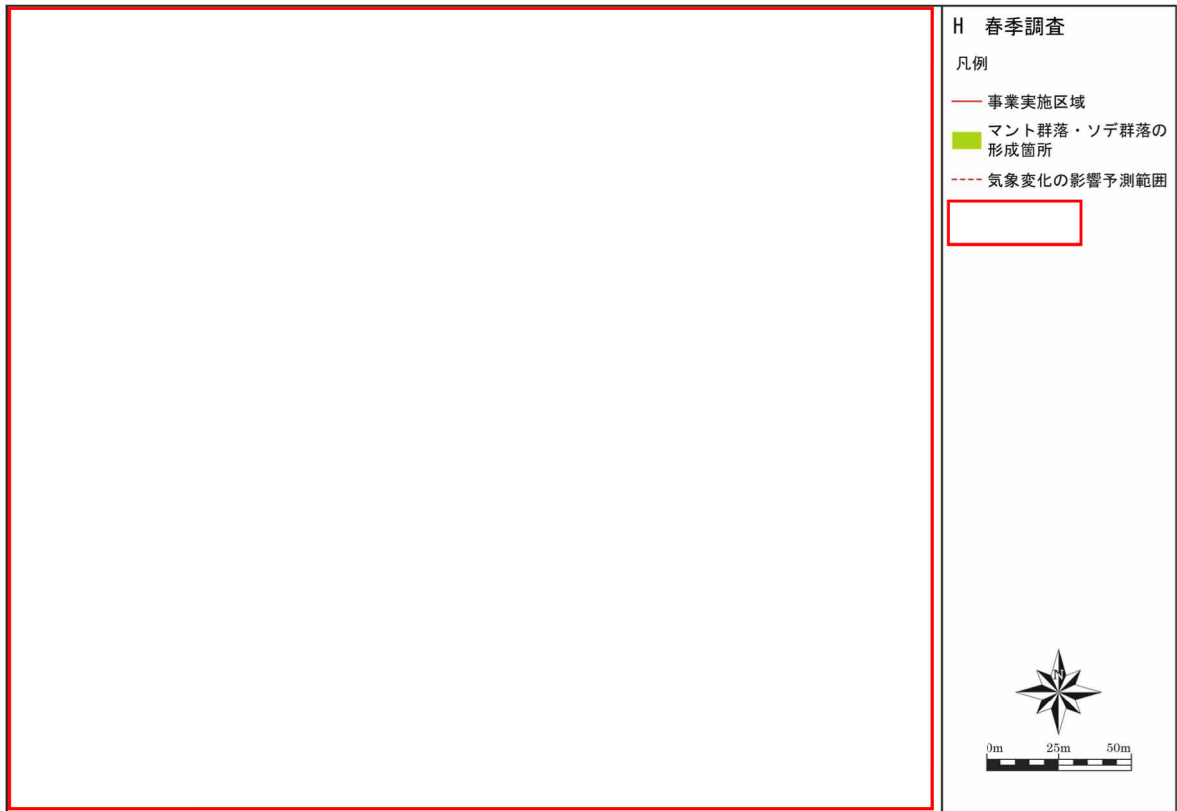


図 6.1.3-39(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 30 年度春季

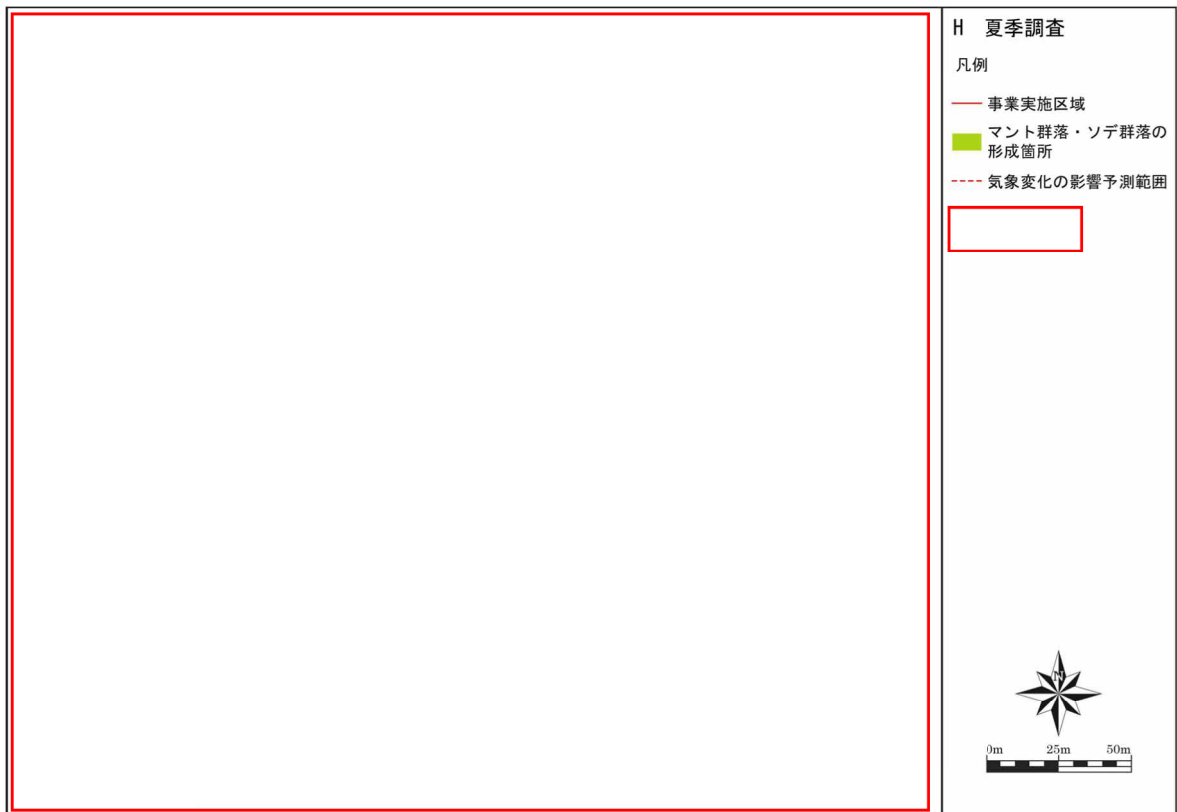


図 6.1.3-39(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 30 年度夏季

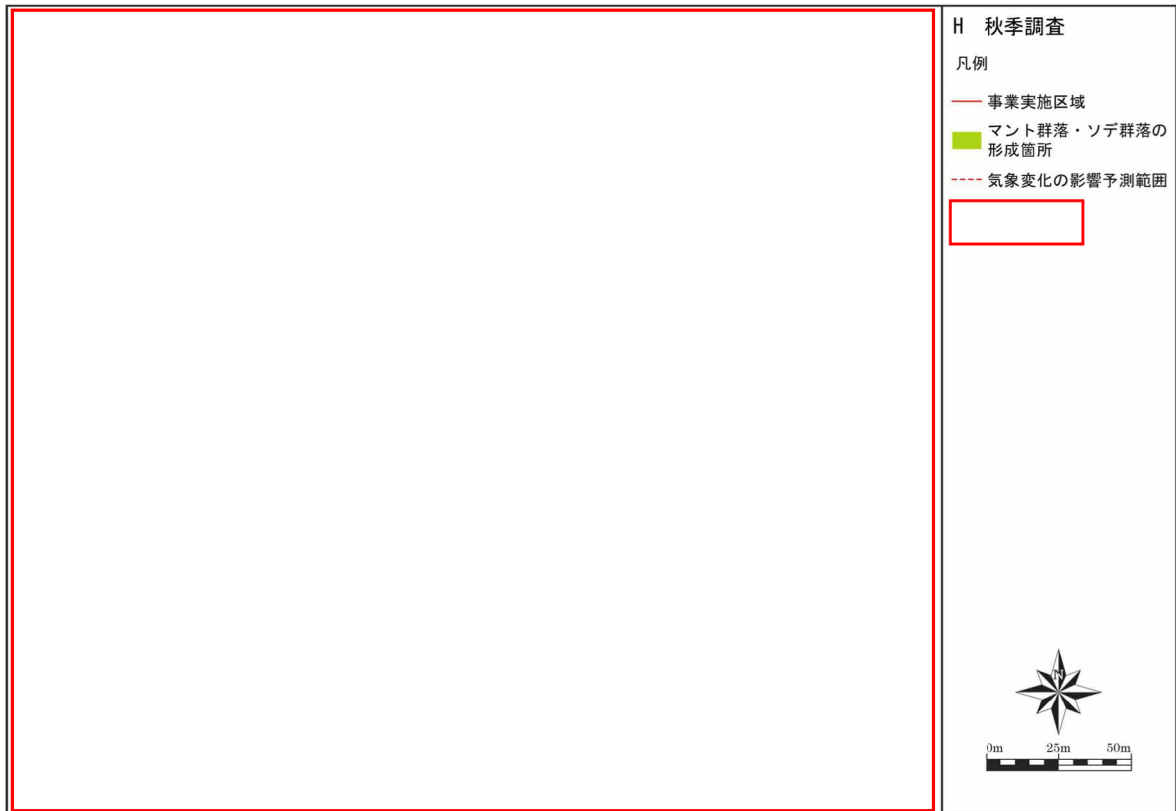


図 6.1.3-39(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 30 年度秋季

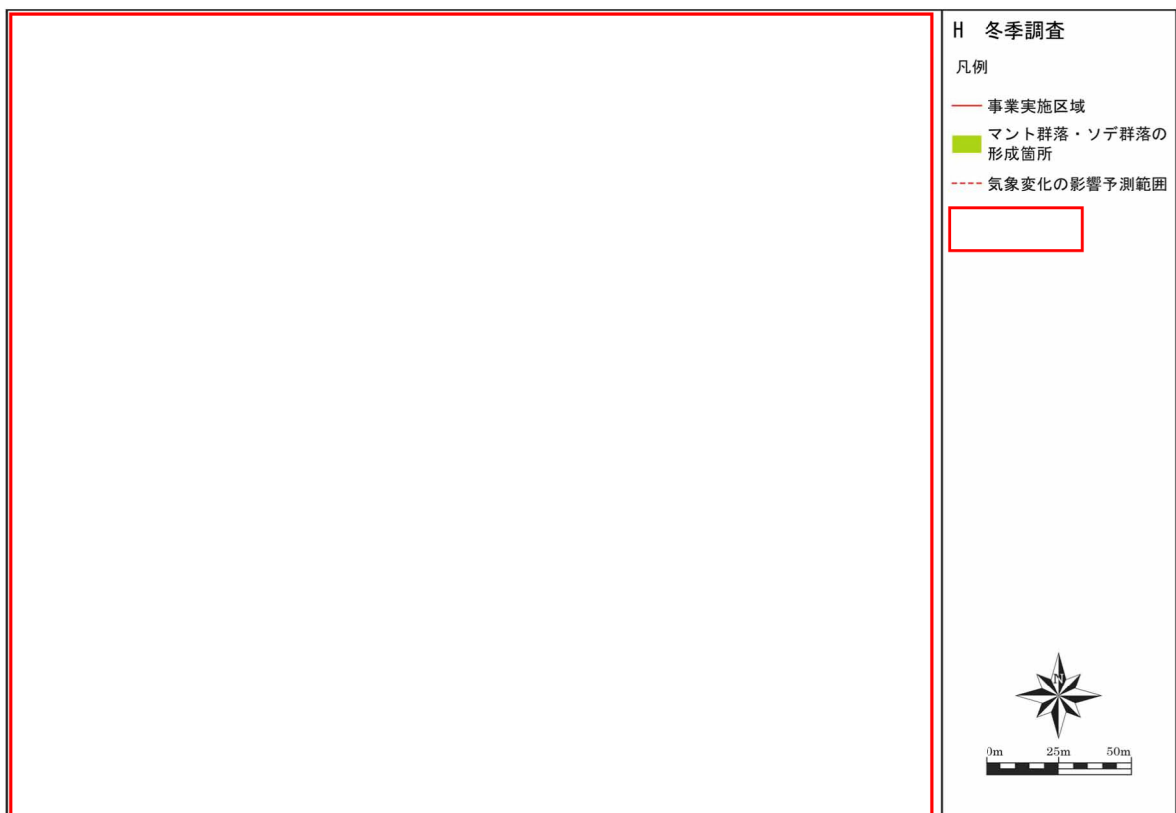


図 6.1.3-39(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(H)平成 30 年度冬季

(c) 植生断面図

平成 30 年度の最終調査における H 植生断面模式図の南北方向を図 6.1.3-40 に、東西方向を図 6.1.3-41 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

H は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

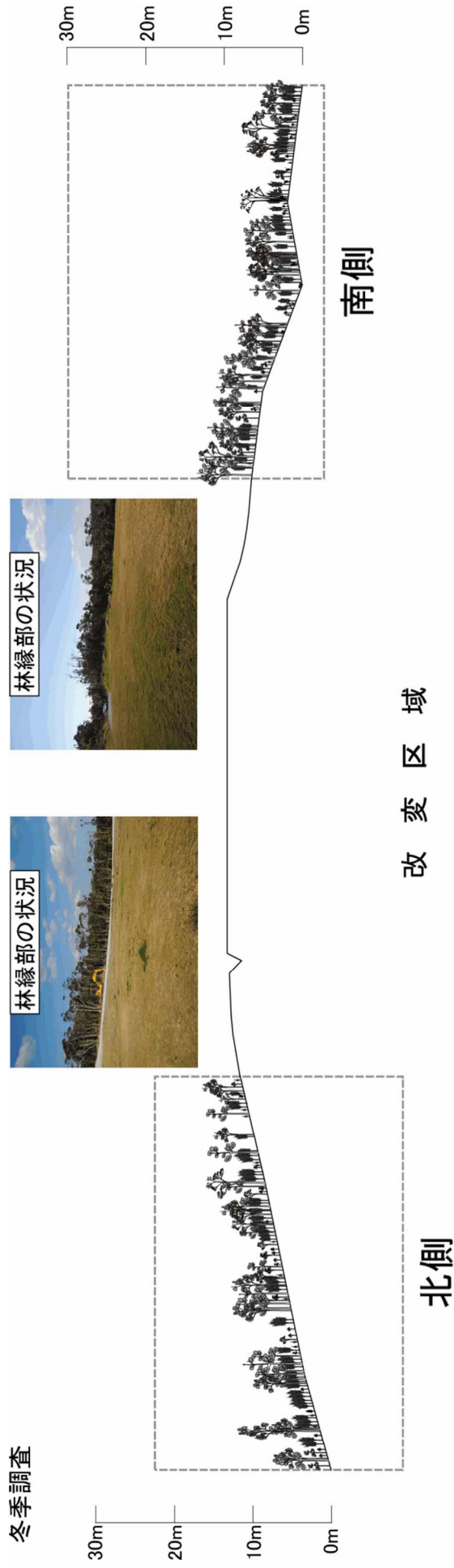
北側は傾斜地で、スダジイ-リュウキュウチク群落、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

南側も傾斜地で林縁部からスダジイ-リュウキュウチク群落が続いている。

東側は、無障害物帯林縁部から 10m 程度の森林環境のあと、舗装された既存の管理用道路が存在し、着陸帯中心から約 45m 付近及び約 55m 付近が急傾斜の法面となっているほかは、緩傾斜の尾根部となっている。法面部以外はインドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、イジュ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、シバニッケイ-リュウキュウチク群落となっている。

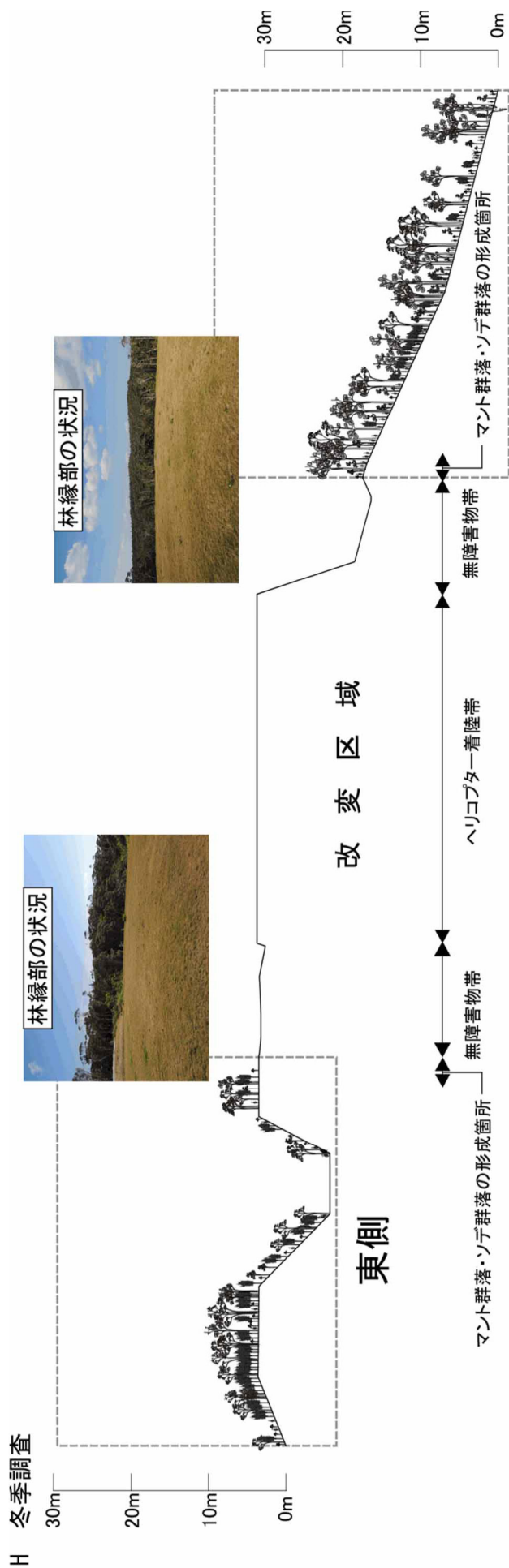
西側は、尾根部斜面となっており、スダジイ-イスノキ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落となっている。

H 冬季調査



植生状況	マント群落・ソデ群落の形成箇所				無障害物帯				ヘリコプター着陸帯				無障害物帯				マント群落・ソデ群落の形成箇所					
	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90			
樹高 (m)	10.4m 6.1m	7.9m 3.0m	7.4m 4.5m	6.9m 4.6m	6.5m 3.5m													6.5m 4.3m	6.5m 5.2m	6.7m 5.4m	6.4m 5.2m	6.7m 4.8m
胸高直径 (cm)	13.1cm 5.3cm	8.5cm 6.2cm	13.4cm 5.6cm	20.7cm 5.9cm	7.8cm 5.2cm													14.3cm 5.3cm	17.2cm 5.8cm	17.4cm 5.6cm	22.0cm 5.3cm	22.2cm 5.3cm
確認された貴重種																						

図 6.1.3-40 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (H) 平成 30 年度冬季



西側

植生状況	シロコガネ リガキの群落		マダシイ リュウキョウチク群落		イブ リガキの群落		イボシロハハ リガキの群落	
	樹高(m)	胸高直径 (cm)	樹高(m)	胸高直径 (cm)	樹高(m)	胸高直径 (cm)	樹高(m)	胸高直径 (cm)
確認された 貴重種	5.3m~ 4.5m	25.5cm~ 6.7cm	6.9m~ 5.2m	5.5m~ 4.0m	5.0m~ 4.6m	5.3m~ 4.7m	5.3m~ 4.7m	5.3m~ 4.7m
	9.1m~ 5.7m	15.5cm~ 5.7cm	6.9m~ 4.0m	24.3cm~ 5.0cm	8.9m~ 2.9m	9.3m~ 4.9m	8.5m~ 4.9m	13.3cm~ 5.2cm
	スタジイ イスハ群落	スタジイ リュウキョウチク群落						

図 6.1.3-41 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側－西側) (H) 平成 30 年度冬季

c) N-1 地区

(a) 維管束植物

影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.1.3-31 に示した。また、確認位置図を図 6.1.3-42 に示した。

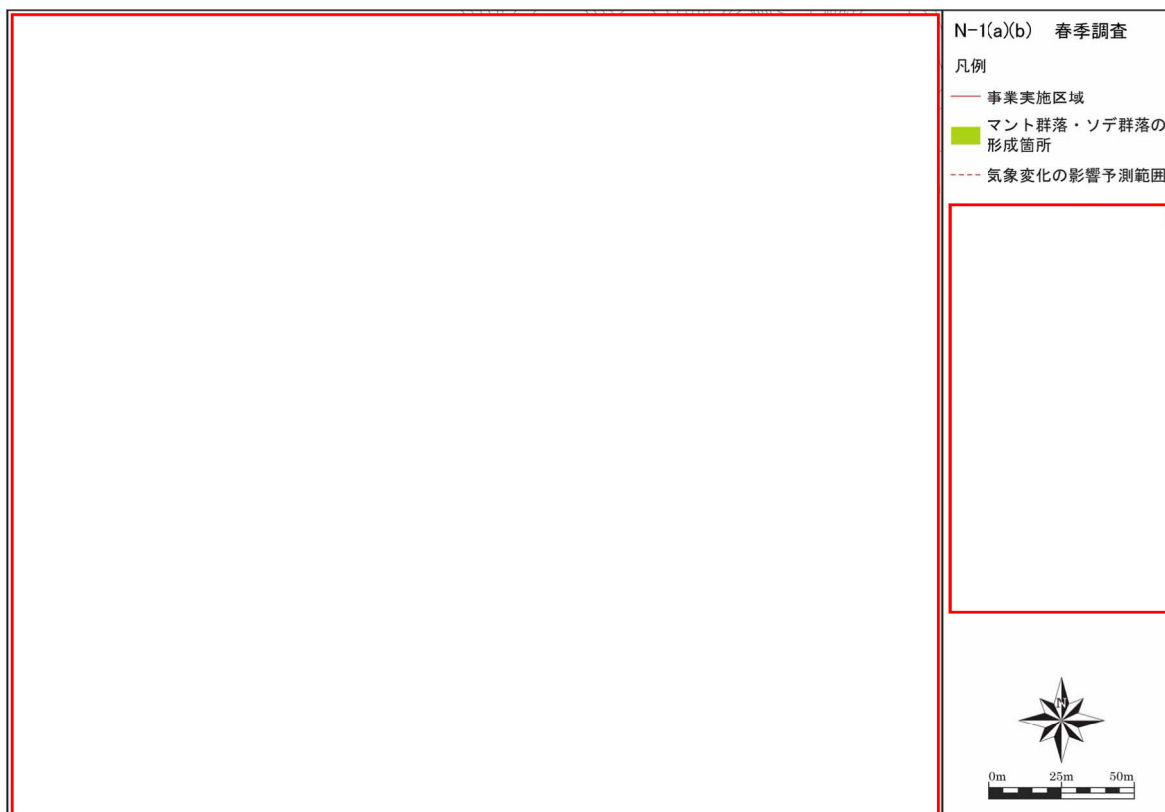
最終調査時で確認された貴重種は、15 種 212 地点 575 株であった。

主な生育地を林内、湿地、沢沿いに区分すると、林内で []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 []、 [] の 14 種を、湿地で [] の 1 種を、沢沿いの湿潤な環境で [] の 1 種を確認した。

表 6.1.3-31 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境(N-1)

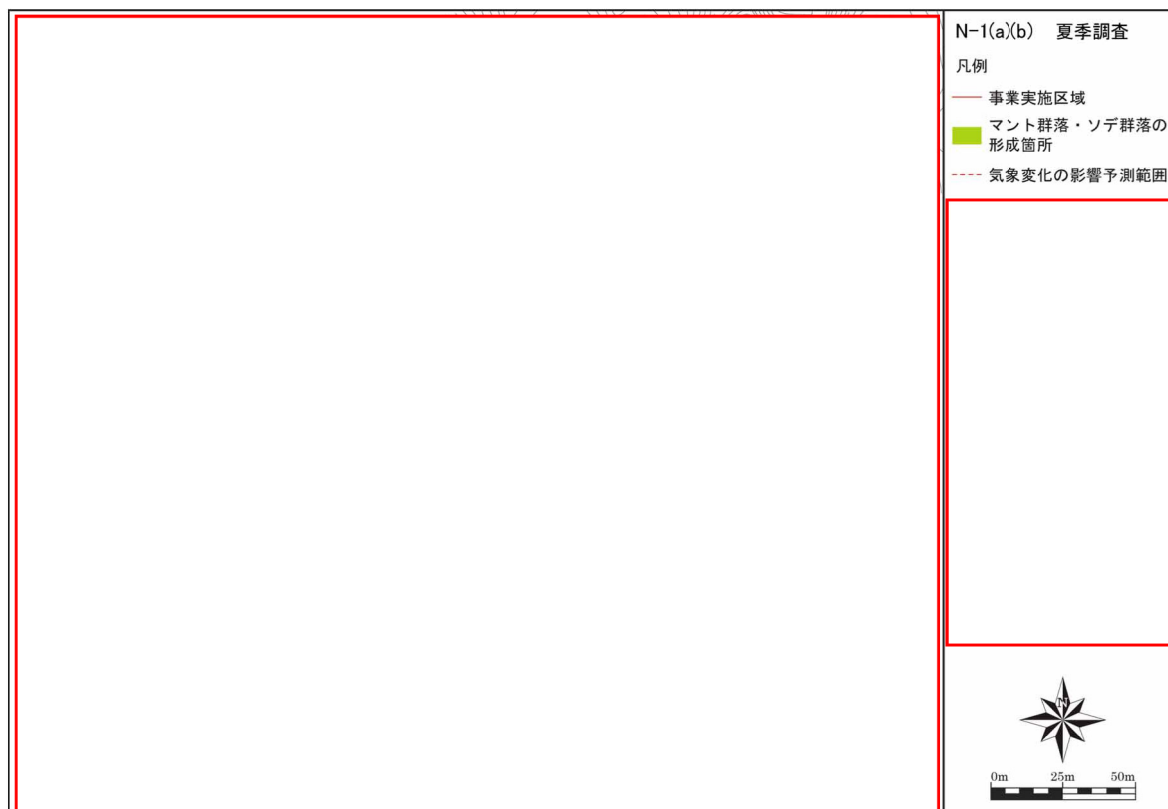
No.	科名	種名	学名	H30年度								貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時								環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季		夏季		秋季		冬季				
				H30年 5月	H30年 9月	H30年 10月	H31年 2月	地点数	株数	地点数	株数			
1				2	12	2	17	2	19	2	18	NT		林内
2				5	5	5	5	5	5	5	5	VU		林内
3				13	60	13	61	13	61	13	63	VU	VU	林内
4				13	13	13	13	14	14	16	16	VU		林内
5				30	31	30	31	30	31	30	31	EN	VU	林内
6				1	1	1	1	1	1	1	1	VU	VU	林内
7				1	1	1	4	1	5	1	20	VU	VU	湿地
8				2	2	2	3	2	3	2	3	VU	VU	林内
9				99	261	100	286	102	292	102	289	NT		林内
10				1	1							NT		林内
11						1	1	2	3	2	3	-	-	林内
12				20	58	26	75	25	72	30	90	VU	EN	林内
13				3	23	4	23	4	28	4	31	NT	VU	沢沿い
14						2	3	2	5	1	2	EN	VU	林内
15				1	1	1	1	1	1	1	1	NT	VU	林内
16						4	4	2	2	2	2	NT		林内
計	8科		16種	191	469	205	528	206	542	212	575	16	10	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。



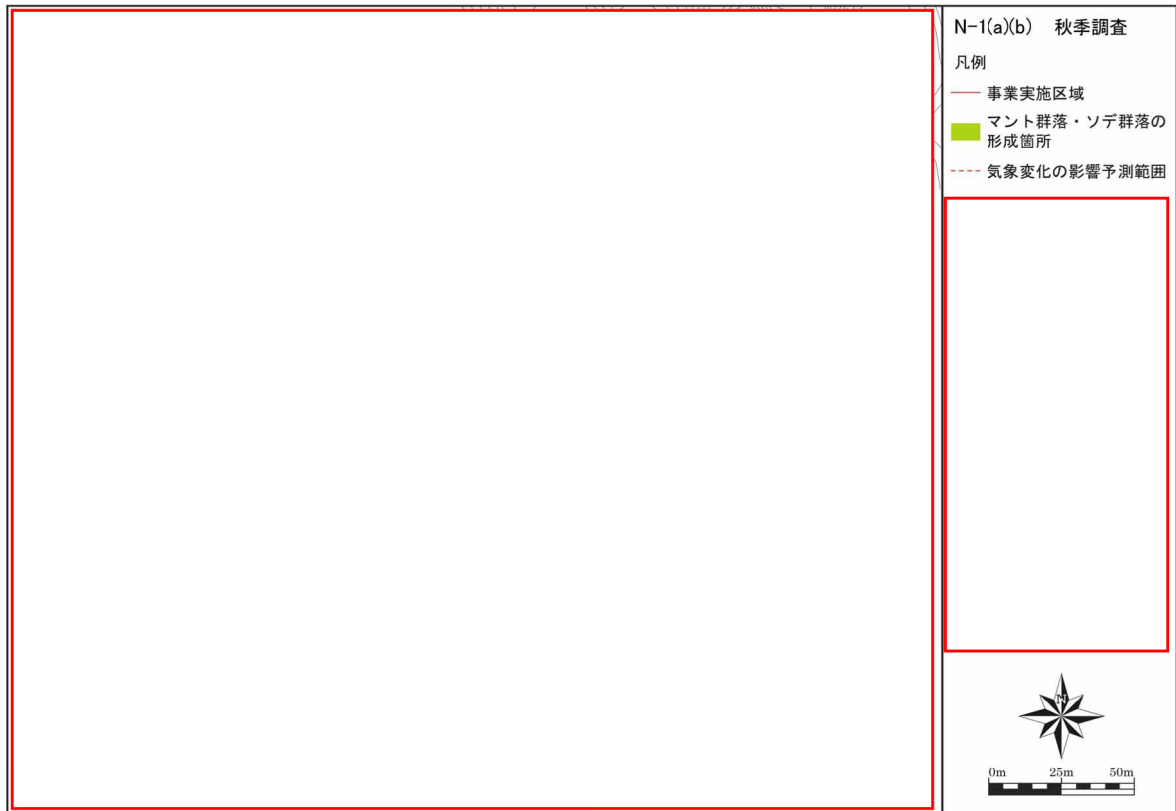
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-42(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-1) 平成 30 年度春季



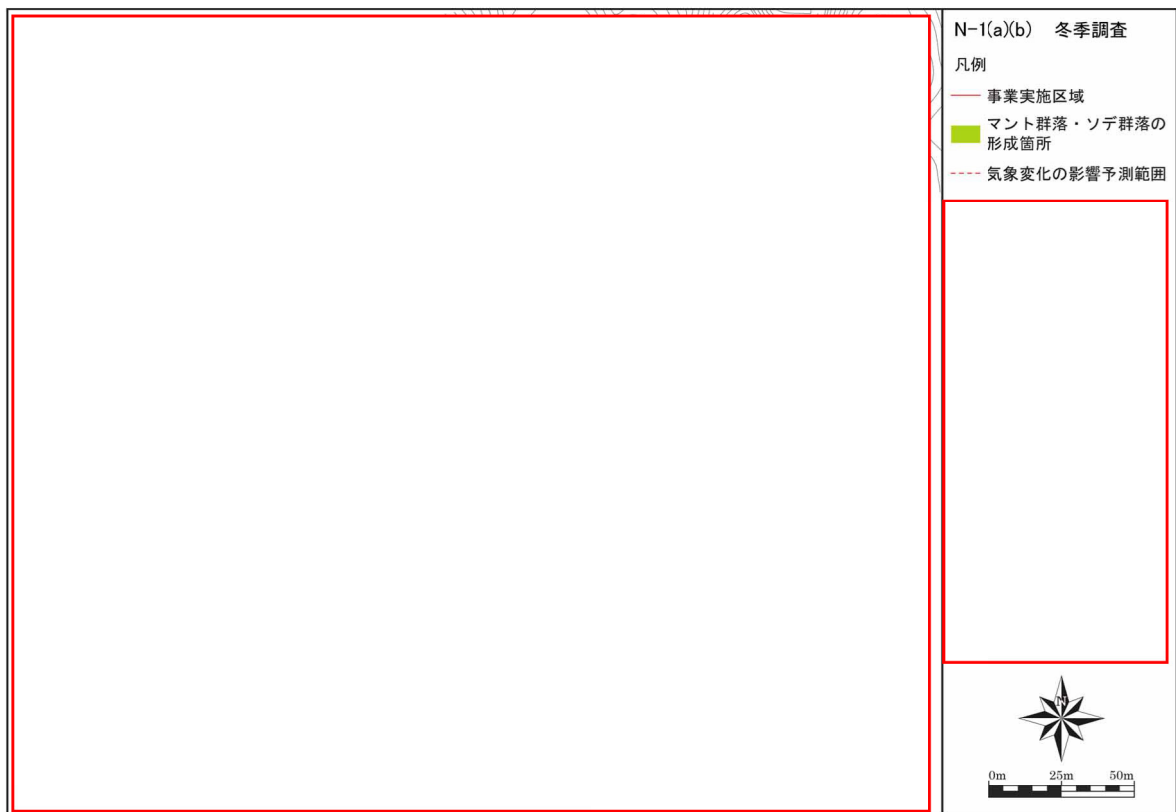
注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-42(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-1) 平成 30 年度夏季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-42(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-1)平成 30 年度秋季



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-42(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物(N-1)平成 30 年度冬季

(b) 蘚苔類

影響範囲 50m 内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表 6.1.3-32、確認位置を図 6.1.3-43 に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は、1 科 1 種 4 地点で確認され、夏季以降は、季節的な変動がみられなかった。

主な生育地は林内で確認されており、は沢近傍の湿った岩や土上に生育していた。

表 6.1.3-32 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(N-1)

No.	科名	種名	学名	平成30年度				貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時				環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季	夏季	秋季	冬季			
				H30年 5月	H30年 9月	H30年 10月	H31年 2月			
				地点数	地点数	地点数	地点数			
1				5	4	4	4	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
計	1科		1種	5	4	4	4	1	0	

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。



図 6.1.3-43(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 30 年度春季



図 6.1.3-43(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 30 年度夏季

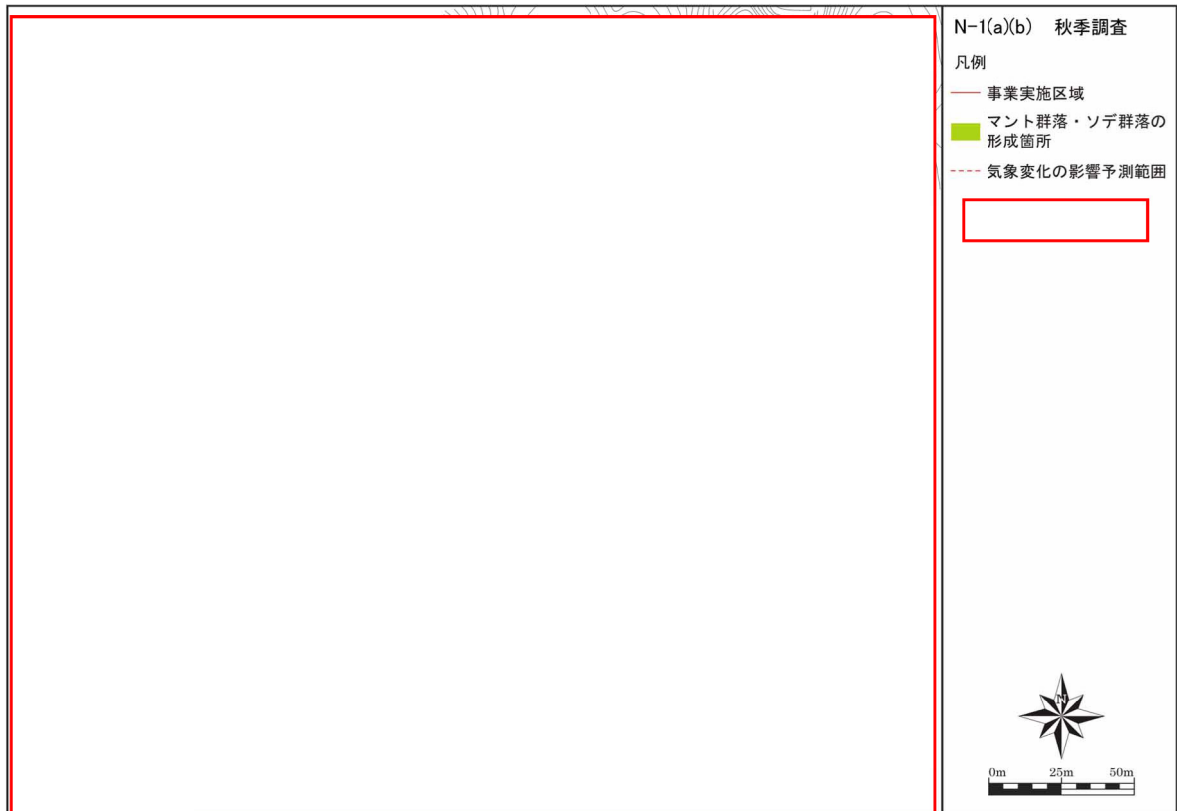


図 6.1.3-43(3) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 30 年度秋季

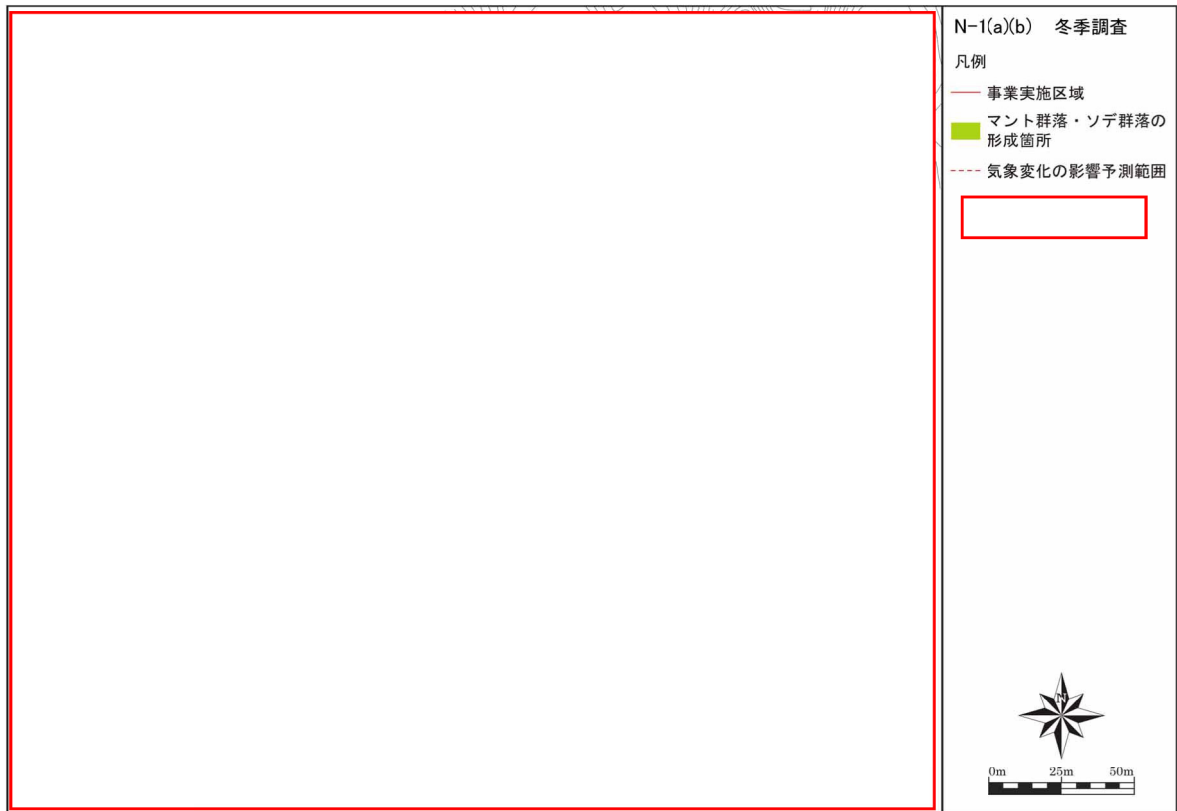


図 6.1.3-43(4) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-1) 平成 30 年度冬季

(c) 植生断面図

平成 30 年度の最終調査における N-1(a) 植生断面模式図の南北方向を図 6.1.3-44 に、東西方向を図 6.1.3-45 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-1(a)は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

北側は、平坦な尾根となっており、ホソバシャリンバイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

南側は、着陸帯辺縁部から谷部傾斜地となっており、着陸帯中心から約 55m 付近まで続き、それ以降は緩やかな尾根部で、スダジイ-リュウキュウチク群落、イジュー-リュウキュウチク群落、ホソバシャリンバイ-リュウキュウチク群落、アオバナハイノキ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、着陸帯中心から約 85m 付近が谷部となっており、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-タイミンタチバナ群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯辺縁に既存道路があり、着陸帯中心から約 25m 付近から傾斜地で約 60~75m 付近が谷部湿地となっている。傾斜地はスダジイ-リュウキュウチク群落とフカノキ-リュウキュウチク群落、谷部湿地は、スダジイ-クロヘゴ群落、アオバナハイノキ-クロヘゴ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

また、平成 30 年度の最終調査における N-1(b) 植生断面模式図の南北方向を図 6.1.3-46 に、東西方向を図 6.1.3-47 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-1(b)は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林環境が広がっている。

北側は、着陸帯中心から約 45~55m 付近が谷部となる緩傾斜地となっており、スダジイ-タイミンタチバナ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

南側は、着陸帯中心から約 50m 付近までが傾斜地となり、それ以降は緩やかな尾根部となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、ヒメユズリハ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、林縁部から尾根部平坦地となっており、林縁部からスダジイ-リュウキュウチク群落、ナカハラクロキ-リュウキュウチク群落が続く森林環境となっている。

西側は、緩傾斜地となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、インドシャリンバイ-リュウキュウチク群落、アオバナハイノキ-イスノキ群落の森林環境となっている。

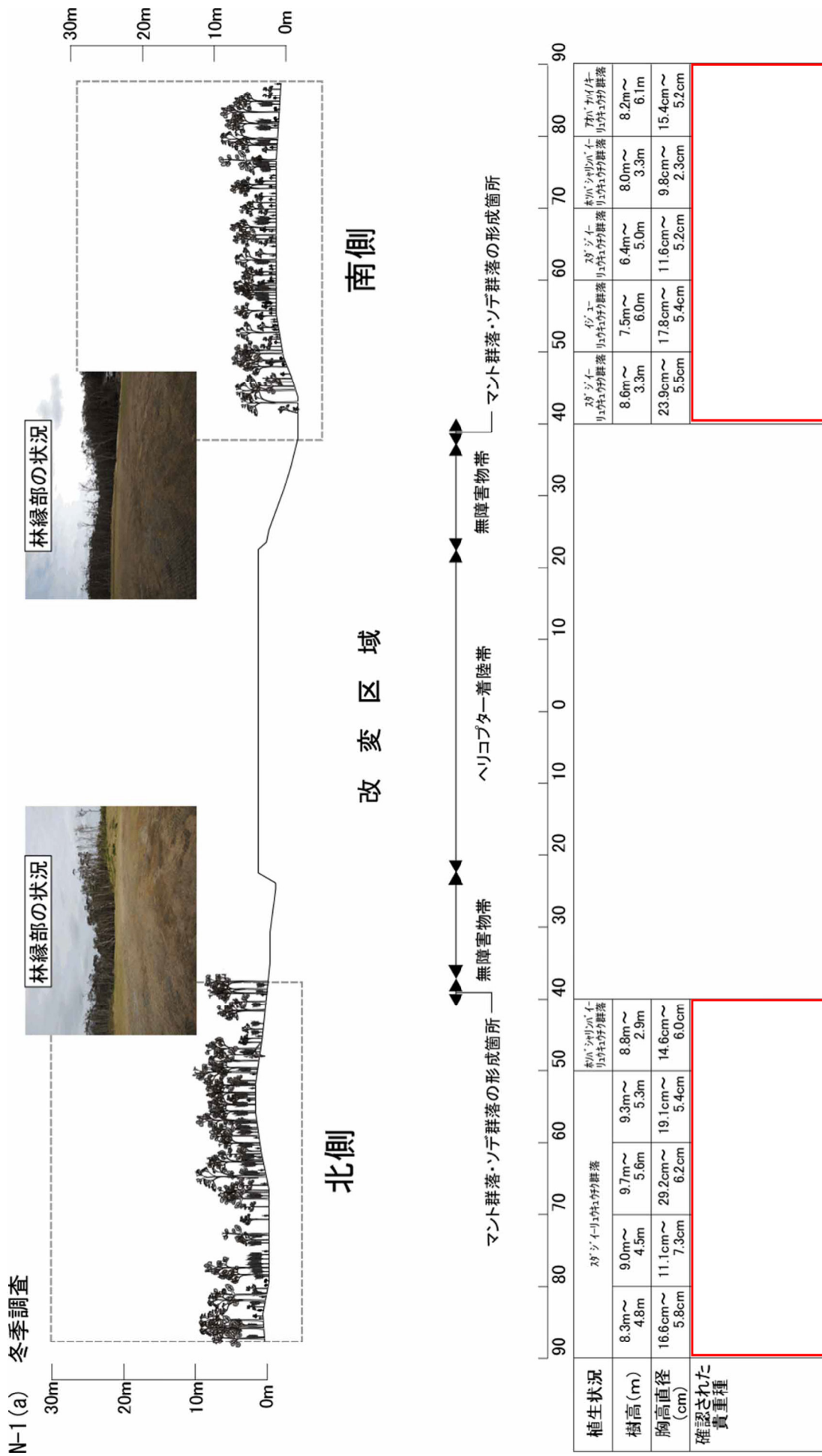
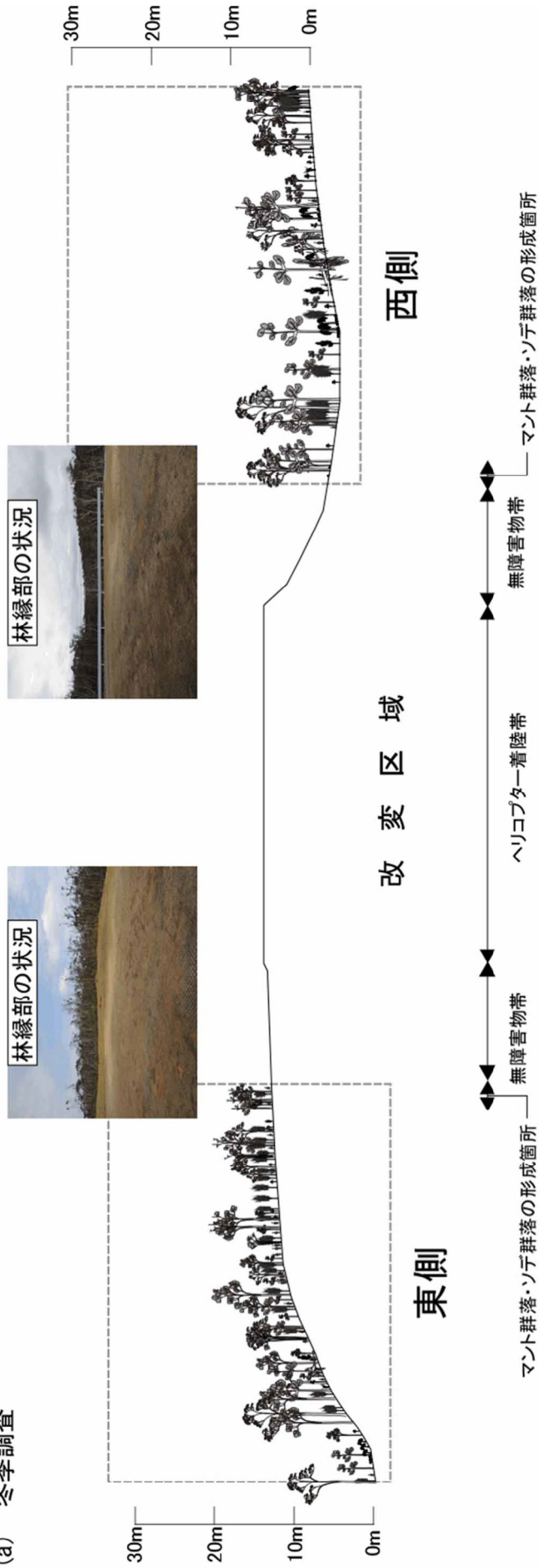


図 6.1.3-44 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (N-1(a)) 平成 30 年度冬季

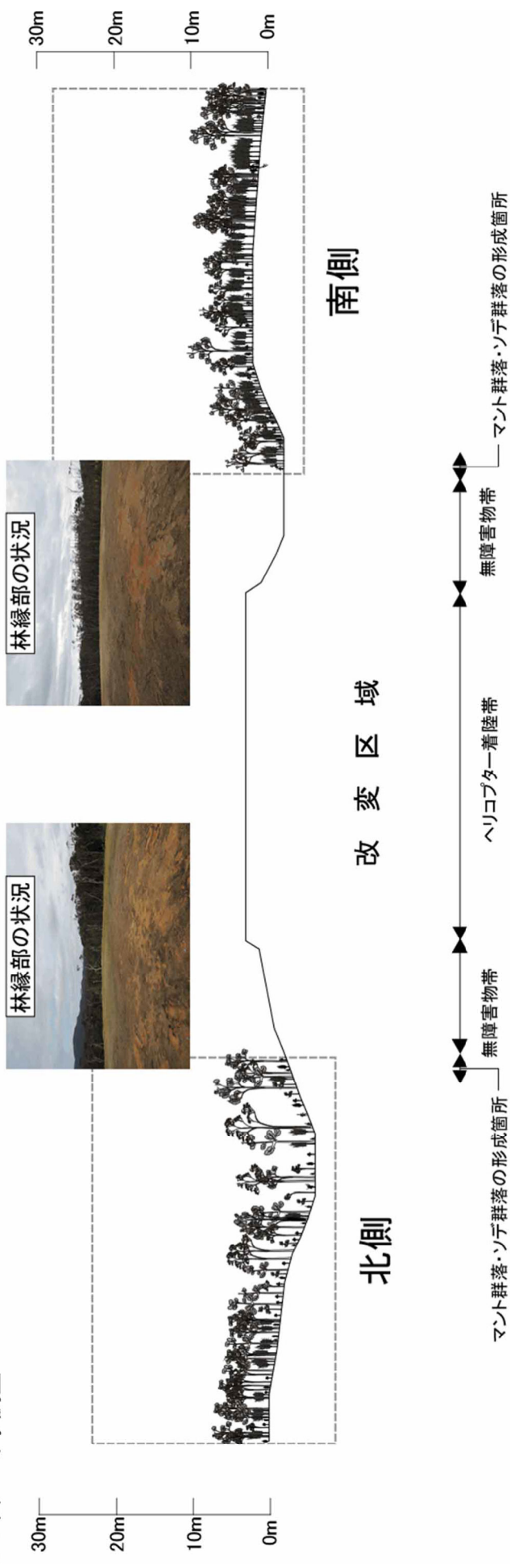
N-1 (a) 冬季調査



植生状況	90	80	70	60	50	40	30	20	10	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
樹高(m)	13.5m~ 10.5m	9.7m~ 5.2m	9.8m~ 4.7m	7.5m~ 3.9m	5.9m~ 3.8m	13.0m~ 6.8m	10.6m~ 7.1m	10.5m~ 2.2m	10.9m~ 9.3m	10.9m~ 9.3m	23.3cm~ 6.2cm	19.2cm~ 8.2cm	10.6m~ 7.1m	10.5m~ 2.2m	10.9m~ 9.3m	15.7cm~ 7.4cm	17.9cm~ 5.8cm	9.4m~ 5.1m	23.3cm~ 6.2cm
胸高直径 (cm)	27.7cm~ 12.0cm	22.1cm~ 5.7cm	29.7cm~ 5.8cm	15.5cm~ 5.4cm	13.0cm~ 5.3cm	23.3cm~ 6.2cm	19.2cm~ 8.2cm	22.7cm~ 7.2cm	15.7cm~ 7.4cm	17.9cm~ 5.8cm	23.3cm~ 6.2cm	19.2cm~ 8.2cm	10.6m~ 7.1m	10.5m~ 2.2m	15.7cm~ 7.4cm	17.9cm~ 5.8cm	9.4m~ 5.1m	23.3cm~ 6.2cm	
確認された 貴重種																			

図 6.1.3-45 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-1 (a)) 平成 30 年度冬季

N-1 (b) 冬季調査



植生状況	スダジイ・リュウゴク群落		マント群落・ソテ群落		イト・ヤブソライ		ヒメス・リハ	
樹高 (m)	7.6m~ 5.3m	7.3m~ 5.4m	9.7m~ 5.4m	10.4m~ 4.0m	8.7m~ 2.2m	6.5m~ 4.0m	8.1m~ 2.8m	9.2m~ 5.4m
胸高直径 (cm)	17.5cm~ 5.4cm	10.9cm~ 5.4cm	15.2cm~ 5.1cm	11.4cm~ 2.6cm	16.4cm~ 5.0cm	12.8cm~ 5.8cm	15.9cm~ 5.4cm	17.1cm~ 6.2cm
確認された貴重種								

図 6.1.3-46 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (N-1 (b)) 平成 30 年度冬季

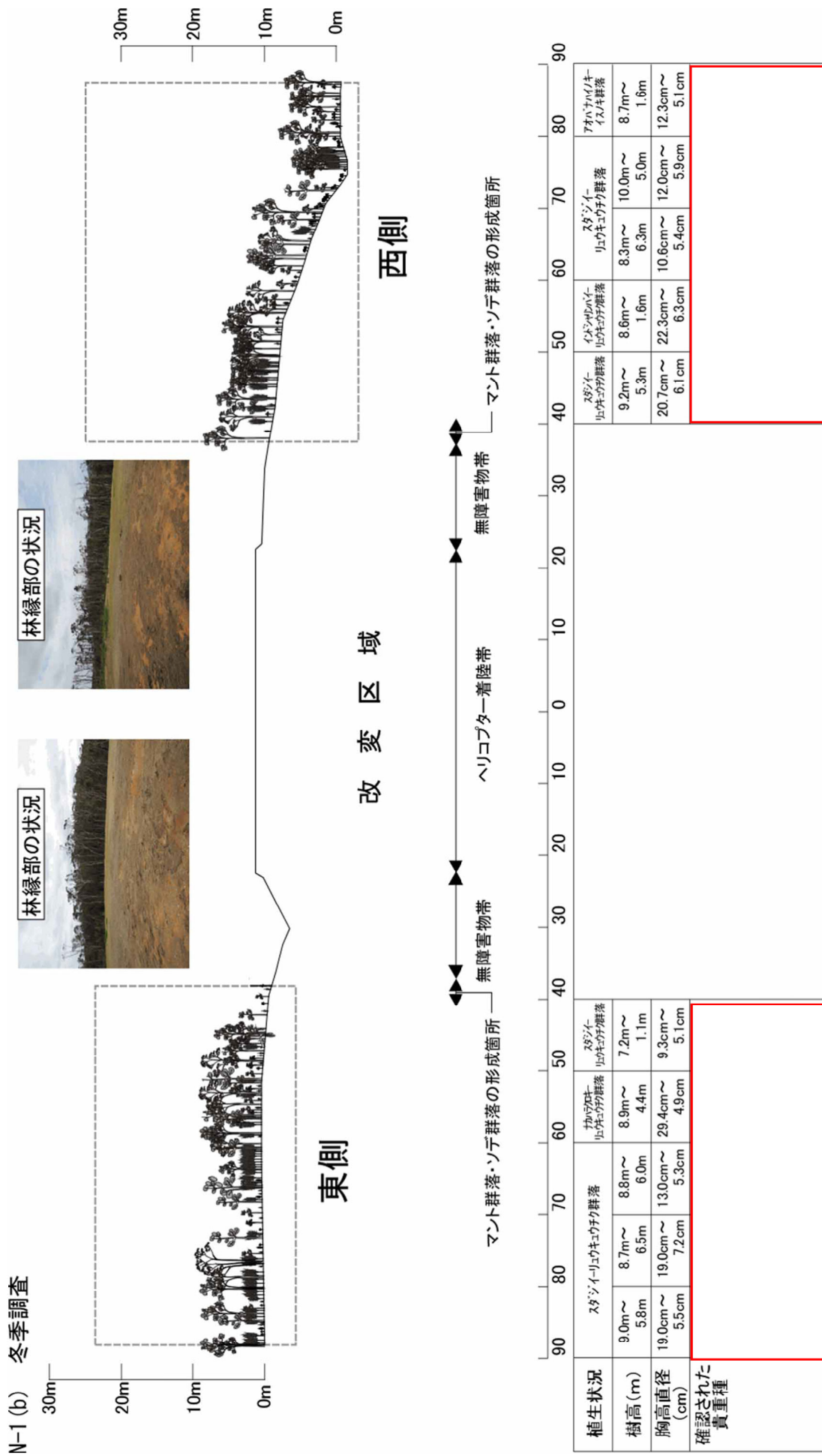


図 6.1.3-47 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-1 (b)) 平成 30 年度冬季